女子プロ野球が与える社会的影響についての研究
Research on the Social Impact of the Women's Professional Baseball in Japan

1K09B079　　小島　萌南
指導教員　主査 木村　和彦　先生　　副査 宮内　孝知　先生

【目的】

昨今の女性スポーツの発展は目まぐるしく,2009 年には日本女子プロ野球機構が設立され,女子プロ野球が誕生した.プロスポーツリーグの設立はスポーツ界や社会に対して何かしらの影響を与える可能性があり,それは女子プロ野球も例外ではないはずである.しかし,女子プロ野球の世間一般での注目度や認知度は高いとは言えないのが現状である.女子プロ野球発足により筆者が期待していたことは,女子野球選手を取り巻く環境や周りの目が変わってくるのではないかということであるが,プロスポーツリーグ・チームが,「競技者・競技環境」に与える影響に関する研究はまだ成されていない.そこで,本研究は,①新しいプロスポーツリーグができたことによって起こる変化を幅広い視点で調査し,明らかにすること.②女子プロ野球が与えている影響を明らかにすることで,女子プロ野球の存在価値を見出すことを目的とする.

【方法】

女子プロ野球が発足したことによって与える影響の仮説として,J リーグがもたらした成果を参考にし,①競技人口の増加②新しいプロスポーツ像の確立の二点が浮かび上がった.この二つの変化が,女子プロ野球設立後も同じように表れているのかを調査する.調査方法として,女子野球関係者,女子プロ野球関係者に対して面接調査を行うと共に,実際の状況を調査していく.

【結果】

調査の結果,上記の影響以外にも、人材育成,競技レベル,プロ・アマの関係性の 3 つの面でも影響をもたらしていることがわかった。競技人口の面では, 女子プロ野球が設立された 2009 年を基準として,チーム数の推移を調査し,競技人口に対する影響を推測したところ,チーム数の明らかな増加が見られた.軟式野球では,2008 年と 2012 年のチーム数を比較すると,学童チームは約 2 倍,中高生チームは約 5 倍のチーム数が増加している.硬式野球は,中学・高校の女子硬式野球部が全国各地で増加していること特徴的である.プロスポーツ像の面では,プレーする場・目標とする具体的な場の創出という新しいプロリーグ設立経緯,野球ができることが当たり前ではない選手達の姿に魅了され,選手達と一緒に野球を楽しむという, 女子プロ野球ならではの新しいプロスポーツの楽しみ方があることがわかった. 人材育成については,女子プロ野球を引退した選手を,指導者として高校や大学の部活動に送り込むことができるように,現役時代から様々な取り組みをしており,機構は指導者の育成に熱心であることがわかった.すでに,女子プロ野球 OG が学校の女子硬式野球部の指導者に就任した実績も残っている.競技レベルでは,「女子プロ野球選手」という具体的な目指す目標ができたことによって,選手・保護者・指導者・その他関係者のモチベーションは向上しているということで,競技レベルの上昇は大いに期待できる.プロ・アマの関係性に関しては,男子プロ野球が長年この問題が議論されているが,女子野球は,プロ・アマの障壁はないということが明らかになった.女子プロ野球創設当初から,プロ側は,アマ野球関係者の意見を真摯に受け止め,実行してきた.アマチュア野球協会が結成する日本代表にも,2012 年からプロ選手が選出されるようになっている.また,同時に現在の女子プロ野球が与え得る影響の限界も見えてきた.女子プロ野球の試合や情報がまだ一般大衆に十分に開かれていないこともあり,女子プロ野球ができても女子野球の一般的な認知度が高まったとは言えないのが現状である.飯沼氏は,女子野球日本代表チームのワールドカップ三連覇の記事をどこの一般紙や週刊誌にも書かせてもらうことができなかったと言う.

【考察】

調査結果から,新しいプロスポーツリーグが発足したことによって起きた成果が明らかになった.今回明らかになった 5 つの影響は,他のプロスポーツリーグやチームの発足においても,もたらされる可能性は十分にある.また,女子プロ野球が与えた影響を考察すると,プロ野球という明確でわかりやすい頂点をつくったことによって,女子も野球をやっていいのだという意識の変化が起こり,競技をする環境は整い始め,女子野球に携わる者の士気を高めることに繋がったのではないかと考える.さらに,新しいプロスポーツの在り方やファンとの関係性を築き,女子野球を一つのカテゴリーとして確立することに貢献していると言えるであろう.加えて,プロ・アマの壁を作ることなく,協同していく方針をとったことで,お互いにとって良い成果が生まれ,女子野球全体の発展に貢献している.また,その関係性によって,スムーズで好循環な指導者育成システムを女子プロ野球側は構築できている.このような功績を残していることが女子プロ野球の存在価値であると考える.